

趣旨	童心に帰って、自然と触れ合いたい
目的	大人・子ども関係なく、自然の中でいろんな体験をすることで、心身ともにリフレッシュし、心も体も健康に！また、体験などを通じて世代間交流会の場になる。
目標	大目標：里山の資源を使ったイベントを実施 小目標：みんなで出し合った「やってみたい」アイデアの中で何か一つでも実現させる。

プロジェクトのセールスポイント

全世代が全力で楽しんで元気に！！

活動の報告 こんな活動をして、こんな反応がありました

●実施の概要●

親子5組かつメンバーの知り合いに限定したイベントを実施。イベントは2部制で第1部は、むくのきセンターの工芸美術室で竹を使った竹灯籠&竹箸作り体験。第2部は、むくのきセンターから里山へ移動してお雑煮とBBQ（メンバーの横山さんが鹿と猪肉、お雑煮の出汁を提供）を食べながら交流会を行った。

第2部の交流会では、第1部で作った竹箸でお雑煮等を食べてもらい、日が落ちてから竹灯籠の点灯式を行った。



イベント名	回数	実施日	参加者数
竹工作&お雑煮	1	2月9日	20
	計1回	延人数合計	20人
メンバー会議	回数	実施日	参加者数
企画会議	6	5月13日 6月26日 7月24日 8月20日 10月15日 11月14日	11人 6人 6人 7人 6人 6人
イベント準備 (里山視察、竹の伐採&加工作業、竹工作の試作品作り、チラシ作り、本番リハーサルなど)	6	6月4日 9月13日 9月17日 12月5日 1月16日 2月5日	6人 6人 6人 7人 8人 7人
報告会準備	4	8月21日 2月17日 3月5日 3月10日	6人 7人
	計16回	延人数合計	115人

●参加者の声や様子●

■第1部（竹灯籠&竹箸作り体験）の感想

- ・子どもは、えんぴつすらカッターで削ったことがないので、竹箸作りも難しく感じたと思いますが、出来上がった物を見て、とても満足気でした。
- ・普段、体験することができない内容で、大人も楽しめました。子どもは作った竹箸をとても気に入って早速、次の日学校の給食に持っていきました。
- ・竹灯籠作りは、電動ドリルで穴をあけるのが大変だったけど楽しかった。

■第2部（竹灯籠点灯式&交流会）の感想

- ・出来上がった竹灯籠を並べて灯が点くと、とても幻想的できれいだった。
- ・子どもは、玄関に作った竹灯籠を飾っています。とても寒かったけど、自分で作った竹箸を使って外で食べるお雑煮はとても美味しかった。
- ・雑煮の出汁が上品で美味しかった。貴重な鹿や猪肉を食べられてよかった。

■その他

- ・今後してほしいイベントとして、宝探し・駒づくり・里山で秘密基地づくり
- ・自然の物で作品作りをしたいという声がありました。

※参加者に対してアンケートを実施。その中から一部を抜粋



鹿&猪肉のBBQ



竹灯籠の点灯式



「蕎麦人」の美味しい二番出汁を使ったお雑煮



竹灯籠作り



竹箸作り

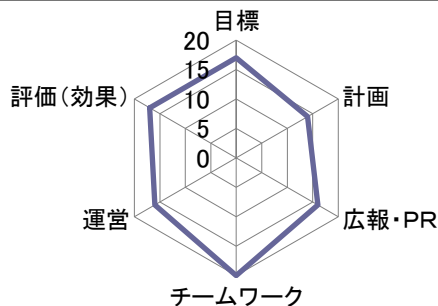


18 里山でお雑煮



里山で火起こし体験

活動の評価 やってみてこんなことを思いました



★評価シートの平均点
 目標 [17点]
 計画 [14点]
 広報・PR [16点]
 チーム [20点]
 運営 [16点]
 評価(効果) [17点]

4：期待を上回った
 3：期待通りであった
 2：期待を少し下回った
 1：期待をかなり下回った
 0：不明

【目標】
 メンバーで「やりたい」ことを実施できた。里山の資源を活用できなかったが、里山で楽しい時間を過ごせた。

【計画】
 イベント実施時、思っていたより、制作の時に人員が必要であったが、臨機応変に対応はできた。イベントも想定より制作の時間がかかった。

【広報・PR】
 今回は、参加者を絞り募集したため、準備もスムーズだったが、活動の目的や目標を伝える際にどのように伝えるかを話あってもよかった。

【チームワーク】
 チームワークは全員「満点！」
 楽しく、無理なく、お互いメンバーのことを考え活動できました。

【運営】
 イベントの事前準備、運営も適切にできた。しかし、他機関や組織との連携を図ることができなかった。

【評価】
 里山での活動する時間が短時間であったが、無理なく会議やイベントを実施できた。

手ごたえを感じたこと・良かったこと

- ・住民と職員が協働して楽しく進められた。
- ・予算が少ない中充実したイベントができた。
- ・グループ内の雰囲気がよく自由に参加できた。
- ・メンバーの参加率が高く楽しく会議や話し合いができた
- ・里山（ロケーション）が良かった。
- ・特に子ども達が里山で楽しそうにしていたのが良かった
- ・寒い季節だったが、里山で雑煮やたき火などで暖をとりながら貴重な体験ができた。
- ・テレビゲームだけでなく、物を作ったり外で遊んだりすることでも、楽しめるということを感じた。

大変だったこと・反省すべきこと

- ・メンバーは楽しく、元気に活動できた。しかし、住民のニーズを把握していたかと言われれば合っていたのか？と思う。
- ・メンバーの数が少なかったため、参加者を限定しイベントをしたこと。今後、広い範囲で募集する場合はもっと段取りを考える必要がある。
- ・イベント時に参加者同士が交流する時間が取れればよかった。
- ・イベントの開催時期が寒い時であったので参加者が寒い思いをした。
- ・低学年には竹燈籠の穴開けは難しかったようで、参加者の枠を広げるのであれば、年齢に合った工作を考える必要がある。見込みが甘かった。

気づいたこと・学んだこと

- ・メンバー間や参加者間でもコミュニケーションの大切さを実感した。
- ・グループ内で役割を決めれば、充実してやる気もでてくるのではと思う。
- ・ドリルの使い方や竹工作の作り方等学んだので、今後活動する時活かせる。
- ・竹に穴をあけたり子どもにとってはすぐに飽きてしまうかも・・・と思ったが、一生懸命取り組む姿を見て皆の集中力の高さには驚いた。

これからに向けての課題

- ・メンバーは楽しめた！次はどう皆さんにおすそ分けしていく？
- ・里山で活動していくにはやはり、産業振興課と一緒に何かできればいいかな。
- ・今年の活動は少し負担があったので、お茶会やランチ会など小イベントでもいいのか、集まりたい？
- ・今後どうしていくかを決定していく必要がある。
- ・活動を継続していくのであるなら、メンバーを増やしていく必要がある。

メンバー

濱崎一規、横山宏誠、今井真理子、今西智佳代、藤原智子、堀友美、植西直人、奥村雅俊、高橋遼平 9名

メンバーの感想 [イベント当日]

濱崎 一規

子どもたちは、普段カッターナイフや電動ドリル等を使ってない割には、楽しく作業をしていて良かった。2月という時期での里山でのイベントは、焚火やお雑煮で暖を取ったものの、やはり寒かった。

横山 宏誠

親子を交え竹の割り箸、竹灯籠をつつくり、里山で竹灯籠で火を灯し竹箸でお雑煮を食べ、楽しい一日をすごせました。

今井 真理子

メンバー間のコミュニケーションが良くて楽しく活動ができた。イベントは寒い時期での実施だったが、子どもさんが思った以上に楽しんでくれて、我々も童心に帰り、思い出に残る楽しいイベントになった。

今西 智佳

活き活きとした子どもたちを見られて、親御さんも満足していただけたかなと思います。少し気温が低かったので心配しましたが、”子どもは風の子”ですね。里山で元気よく走り回ってくれるとは予想外でした。

藤原 智子

大人と子どもが協力して一生懸命に慣れない、カッターナイフや電動ドリルを使っての作業は大変だったと思いますが出来上がった竹箸・竹灯籠は満足な物で思い出になったでしょうね。私は、お役に立てなかったですが楽しませてもらいました。

堀 友美

イベント準備も楽しくでき、当日は子どもも大人も楽しめたイベントができたのではないのかなと、皆さんの笑顔を見て集合写真を見てしみじみ感じました。

植西 直人

メンバー同士無理なく、仲良く進められたかと思います。イベントは不安もありましたが、子どもたちが思いのほか興味を示してくれ、集中力を持って取り組んでくれていたようで、良かったです。

奥村 雅俊

メンバーが楽しんで活動できていたのがなにより良かったと思いました。イベントの準備や開催について手間も時間もかかり、大変ではありましたが、やりがいも感じられたかなと思います。

高橋 遼平

メンバー全員が、与えられた役割をしっかりとこなして、最後まで無事にイベントが終わり安心した。

参加者の子どもたちもメンバーの私たちも楽しいイベントになりました。

メンバーの感想 [活動全体通じて]

濱崎 一規

プロジェクトがスタートして以来、指す所の夢を形に集まった同士で夢を形にすることができました。メンバーやイベントに参加して頂いた方々と楽しいひと時を有意義に過ごす事ができました。

横山 宏誠

今まで全く知らなかった方々と、昔から知り合いの間柄の様な関係になり、一緒に物を作ったり、いろいろ話し合ったことが、大変よかったですと思っています。

今井 真理子

少人数ゆえのプレッシャー（行かなければ！）がありましたが、参加すると楽しく帰りはいつも笑顔でした。1年という長丁場でしたが、チームワーク抜群で明るく前向きに取り組めたと思います。脱線話も楽しく元気の“おすそわけ”を沢山いただきました。

今西 智佳代

プロジェクトに参加し、エコに関心が持てるようになったり、精華町にも関心をもつようになりました。良い事がたくさんありました！！

藤原 智子

企画会議にはほとんど参加できない状態で残念でした。2月9日のイベントは「森の基地づくり」の「童心にかえって自然と触れ合う」という趣旨にそった活動だったと思います。

堀 友美

メンバーが集まると、いつも笑い声の絶えない元気になれる会で皆の「やりたい」ことにメンバーが次々追加のアイデアを出して楽しいイベントを企画し実施できたと思います。心も体も元気になる方達とつながれました。

植西 直人

企画会議やイベント準備、イベント当日など無理なく楽しんで出来たと思います。住民さんと職員という立場ではなく、同じ立場で目標に向けて皆さんと取り組めたのは、とてもいい経験でした。ありがとうございました。

奥村 雅俊

みんなで集まるたびに楽しめ、笑顔と元気になることができました。また、メンバー一人一人が主体となって活動に参加し、イベントの成功という同じ目標に向かって、楽しみながら活動できていたのではないかと思います。貴重な経験ができました。

高橋 遼平

プロジェクト結成時に作ったプロジェクトの7か条の中で「癒やし癒やされ第二の実家」と挙げていましたが、本当にその通りで、活動中の会話の半分は、プライベートな会話をするくらいに、皆さんと楽しく良い雰囲気の中で活動できました。この活動を通して、コミュニケーションの大切さを改めて実

